

豪州首相ジョン・ハワード閣下歓迎昼食会

豪州のジョン・ハワード首相が来日された機会に、日豪経済委員会の主催（後援：日本経済団体連合会、日本商工会議所、当会）で、3月13日（火）、東京會館において歓迎昼食会が開催され、約120名が出席した。日本側からは、政府ならびに財界関係者が出席し、当会を代表して宮原賢次名誉会長が出席した。今井敬日豪経済委員会会長の歓迎あいさつに続き、ハワード首相から答礼あいさつがあり、また日本経済団体連合会を代表して御手洗富士夫会長からあいさつがなされた。

ハワード首相あいさつ要旨

今年は、日豪通商協定署名50周年の記念すべき年である。この協定は、第2次世界大戦からわずか12年後というタイミングで豪州国内の反対論にもかかわらず、両国の勇気ある指導者達により署名され、日豪の強いきずなの土台となった。

今回の訪日の目的は、通商協定50周年を記念し両国の協力を強化すること、および安全保障協力強化のための共同宣言に署名することである。

緊密な日豪関係の根底にあるのは、両国が、太平洋地域の2つの主要な民主主義国家であることであり、日米豪の協力にも同様の意義がある。また、豪州は日本の国連安保理常任理事国入りを支持している。

豪州経済は、さまざまな改革の効果により最長の経済成長を遂げている。日豪両国は共に成長することをめざし、国際競争の中、競争力を維持、強化していくことは共通の課題である。同時に、エネルギー安全保障および気候変動の問題への対応も重要な課題となっている。

日豪関係が大いに強化されていることは喜ばしいことである。過去を忘れるということではないが、それにとらわれず、未来に向かって協力することが重要である。今回の訪問は、11年間の首相在任中で、最も重要なものとなった。なぜなら、充実した日豪関係が、日豪両国に真の利益をもたらしているからである。

（国際・調査グループ）

